



平成27年 9月25日

学校だより 第7号
苫小牧市立苫小牧東小学校

太陽の子

ホームページURL <<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/gakko/tomahigashi-es/index.html>>

東小の教育目標

東小の子は太陽の子

- 進んで学ぶ かがやく子
- 思いやりある あたたかい子
- 心身ともに健康な 明るい子

「自分を表現する力」

校長 寺田 洋子

2学期に入り5年生の宿泊学習、6年生の修学旅行が実施されました。天候に恵まれ、大きな行事も子どもの成長と共に、ねらいに沿って終えることができ、ホッとしております。

季節は秋を迎え、切れ間なく続く黄金色の豊かな実りの時期となり、学習に運動に最も適した時を迎えます。

子どもたち一人ひとりが、目標に向かって一つ階段を上がる、そんな充実した指導を重ねて参りたいと考えます。

中でも、本校では、今年度の学校の研修テーマを「基礎・基本を身につけ、自分の考えを表現し合える子の育成」と設定し、国語科の授業を通して、言語活動の充実を図る研究を進めております。日常、「言語」で考えや気持ちを伝え合っている私たちは、「言語を使った表現力」を鍛える必要があります。特に、小学生のこの時期は、上手な言葉の使い手をめざし、「言語」についてしっかり学習しなければなりません。

ですから、「話しことば」でも「書きことば」でも、的確に相手に伝える力を身につけるために、それ相応の学びの場が必要となるのです。

過日、平成27年度4月に実施しました6年生を対象とした全国学力学習状況調査の個別の結果についてまとめられました。

出題傾向として五教科（国語A・B、算数A・B、理科）とも、基礎基本をもとに、自分の考えを記述する力や他と比較して意見を述べる力を求める問題が多く、より高い表現力や思考力が求められていることがわかります。

4年生から6年生までを対象に行いました苫小牧市学力調査においても、同様の傾向が得られています。テスト結果が学力を決定するすべて

ではありませんが、本校の子どもたちが苦手としている内容については、今後の指導で、重点化を図って参ります。そして、基礎基本を身につけ、自分の考えをしっかりと表現し合える力を育てるため、子どもの意欲を引き出すより質の高い授業を追求し、研究を深めてまいります。



<3年生；授業風景>



読書感想文のすすめ

読書のシーズンになりました。

「読書感想文は、泣きながら親に手伝ってもらって書いた」と苦い思い出を語る大学生も多いそうです。

読書感想文は、「素直な、本音の文章でいいはずですよ」

読書感想文コンクールもありますが、自分が最もよく知る人すなわち親との間で感想交流する方法もあります。子どもにとって、読んだ本について初めて「本音」で表現するのは。子どもと同じ本を、親も一緒に読んでみて、お互いが同じ本を読んだあと、「この箇所どう思う？」と投げかけることが親子読書感想文を成功させる秘訣のようです。お互い感想文として書いてみて読み合ってもいいでしょう。

そうすると選書も重要です。たとえば、『ガリバー旅行記』などいかがでしょうか？

本を通して本音で話し合う、ゲームのしすぎで考える力を失う対策として、読書を提案し、親子感想文をおすすめします。



